



# SPECviewperf<sup>®</sup> 12 ベンチマークの概要

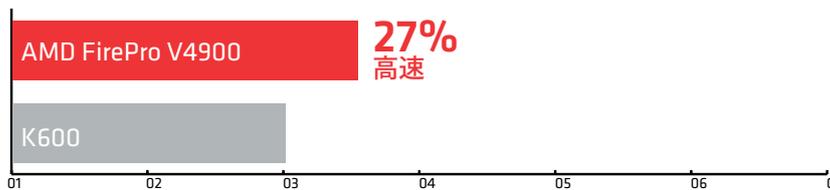
SPECgpcは、OpenGL™およびDirectX<sup>®</sup>のアプリケーション・プログラミング・インターフェイスで動作するシステムでグラフィックス・パフォーマンスを測定することを目的とする業界標準のベンチマークの全く新しいバージョンであるSPECviewperf<sup>®</sup> 12をリリースしました。

SPECviewperf<sup>®</sup> 12は、ワークステーショングラフィックス・カードに対してストレス・テストを実行して、最新のアニメーション、設計、3Dモデリング、エンジニアリング・アプリケーションのパフォーマンスを評価することを目的として設計されています。この評価において、AMD FirePro™は、あらゆる製品レンジでトップレベルのパフォーマンスを実現しています。

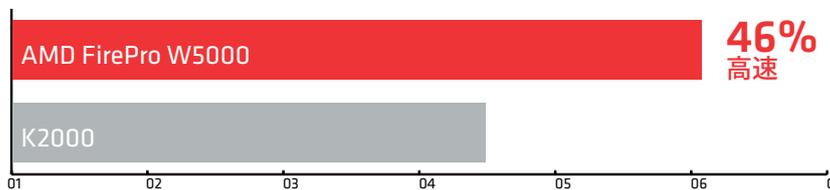
## SPECviewperf<sup>®</sup> 12の特長



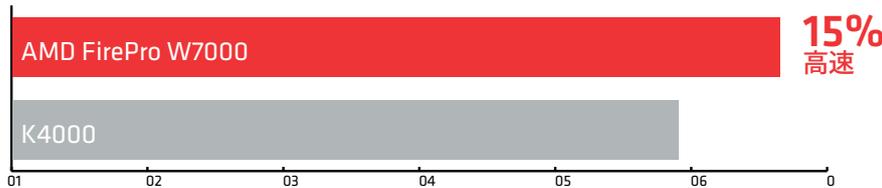
### エントリー・レベル



### ミッドレンジ



### ハイエンド



## SPECviewperf 12の特長

SPECviewperf 11のリリース後、このベンチマークは、実際のテストとデータをテストフレームワークから分離するように再設計されました。SPECviewperf 12に含まれている新しいビューセット(個別のテスト)は、プロフェッショナルグラフィックス・カードで動作するアプリケーションの実体験をレプリケートするという高度なミッションを実行するために設計されています。また、OpenGL 4.0やDirectX<sup>®</sup> 11といった最新のGPU APIの利点を活用しています。

### この新設計による主なメリット

1. ビューセットをそれぞれ別々に登録できます。これに対して、SPECviewperf 11はSPEC委員会の1メンバーによって作成されたため、他の委員会メンバーによるベンチマークのデータセット・ソースやトレースに関する生データを提供したり、確認したりすることはほぼできませんでした。SPECviewperf 12は、複数の委員会メンバーから提供されたビューセットから構成されています。各メンバーがテスト用に完全なソース・コードを提供し、これらを委員会の全メンバーが確認することができます。

2. SPECviewperf 12のトレースは、アプリケーションの最新バージョンから取得されています。一方SPECviewperf 11は2010年にリリースされましたが、ソフトウェア・ベンダーは毎年のように更新版をリリースするのが一般的です。したがってSPECviewperf 11のトレースは、このようなアプリケーションの最新バージョンよりも3世代以上前のバージョンとなっています。

このようなメリットによってGPUパフォーマンスの表示に関する正確さと信頼性が向上し、SPECviewperf 11によって設定されていた従来のベンチマークからのシフトが起きている。SPECviewperf12を使用すると、AMD FireProグラフィックスが最新のアプリケーションでの動作に適しており、多くのテストにおいて競合他社製品よりも非常に優れていることが明らかになります。

## 設計を限界まで追求する

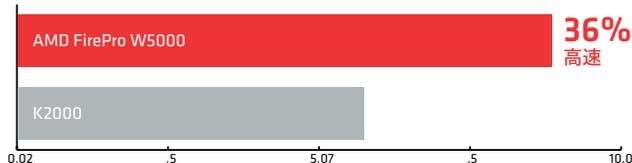
最新のAMD FirePro™グラフィックス・カードは、複雑なCADモデリングと最先端のレンダリングやシミュレーション (CAE) を組み合わせ、高度なSolidWorks®ワークフローとサイマルテイニアス・エンジニアリングを念頭に置いて設計されています。グラフィックス・カード・ドライバーは、SolidWorks 2013および2014に合わせて徹底的に検証、最適化され、動作認定を受けています。またこのドライバーでは、SolidWorksに特化した数多くの最適化が実現されており、デザイナーやエンジニアが、ご使用のワークステーションを最大限に活用できるようになっています。現在入手可能な最新のAMD FirePro™ドライバーをお使いいただくと、新しいAMD FirePro™ Wシリーズ・グラフィックス・カードを使用した場合に、SolidWorks® 2013でのグラフィックス・パフォーマンスが最大3倍向上します。



## GPUで加速された透過モードによる、設計の正確さの向上

SolidWorks 2014では、オーダー・インディペンデント・トランスペアレンシー (OIT) が利用可能となっています。OITによって、モデルやその周りのジオメトリーを「ピクセルレベル」で正確に描画することが可能となり、またAMD FirePro GPUによって高速化されているため、従来のブレンド・モードよりも動作速度が大幅に向上します。OITによって、設計者に適した、より現実に近いトランスペアレントな3D視点が作成されます。こうした3D視点を通してユーザーは継続的に作業できるため、「設計に対する直感性」が高まり、製品開発段階を通して適切な判断を下せるようになります。

### SolidWorks 2014 SP1 - アンビエント・オクリュージョン・コンポジット



システム構成: Intel E5-1660 3.30GHz, 16GB RAM, Win7 64-bit SP1, AMD 13.152.4, 13.25.18.1 Nvidia 331.65, 331.82

## SolidWorksとAMD FireProの推奨構成

	モデルのサイズと複雑性	可視化	シミュレーション
AMD FIREPRO W7000	● ● ●	● ● ●	● ● ●
AMD FIREPRO W5000	● ● ●	● ● ○	● ● ○
AMD FIREPRO V4900	● ○ ○	● ○ ○	● ○ ○

## AMD FirePro R5000 Remote Graphics搭載によってクラウド環境でのSolidWorks利用が実現

SolidWorks & CAMWorksに対する動作テストおよび認定済み。どこにいてもインターネット経由で自分のモデルに安全にアクセス可能。

GDDR5メモリー (2GB) と、Teradiciの技術によるセキュアな高信頼性PCoIPプロトコルによって実現したパワフルなプロフェッショナル・グラフィックス・ソリューションです。すべてがこの1枚のグラフィックス・カードに凝縮されています。

AMD FirePro R5000グラフィックス・カードは、ローカルのワークステーション・ソリューションでも利用でき、リモート・ワークステーションへと適宜切り替えることによって、世界のどこにいても自分のモデルにアクセス可能となります。



[jp.amdfireprohub.com/software/solidworks/](http://jp.amdfireprohub.com/software/solidworks/)